

河野 護名誉教授略歴・主要業績

略 歴

- 1937年 10月 21日午後7時20分東京都八王子市本町35番地にて、織物業者の父庫之助、母エイの次男として生まれる。
- 1944年 4月 八王子市立第一国民学校入学。
- 1945年 3月 3月10日の東京大空襲による都心消失後八王子も米軍に空襲される危険を避けるため母の実家神奈川県津久井郡与瀬（現相模湖町与瀬）に預けられる形で疎開する。
- 1945年 4月 与瀬町立桂北国民学校2年に転入学。
- 1945年 8月 15日終戦（敗戦）。8月1日夜八王子が空爆され旧市街全域焦土と化す。家に帰っても両親の足手纏いになるため引き続き母の実家の世話になる。小学3年の終わりまで2年間疎開生活続く。が、ここでの生活に多大の影響を受ける。教育とは無関係の父の家系から母方の教師もいる家で育った。多聞する疎開児の悲哀など受けるどころか皆に大事にされ大切な子供時代を過ごすことができた。相模湖完成前の桂川に遊び満水となった相模湖で泳ぎ山を駆け回って体を鍛える。勉強はした覚えはない。母の父（祖父）は農夫であったが伯父は町役場に勤める役人、その息子（従兄）は鎌倉師範（寄宿制）に在学中のため子供はなく可愛がられる。縁者が通学する国民学校の校長、もう一人の叔父は近くにある駐在所に勤務する警察官。学校では校長の家の子供と思われたり警察官の叔父が近くにいるのでいじめられることは皆無。この時期無意識の内に教員志望に傾倒したようである。翌年従兄は同国民学校の教諭となり更に注目される。

- 1947年 3月 八王子市三崎町に新築された家に帰り家族に合流。
- 1947年 4月 八王子市立第三小学校4年に転入学。
- 1948年 4月 小学校5年から6年まで担任木村純先生に教えを受ける。
- 1950年 4月 八王子市立第三中学校入学。子安庭球倶楽部に入部。山田叅三オーナー兼コーチの指導を受け、朝練から始まり放課後も休日にも頻繁に練習する。山田氏の教えに従い生涯庭球（現ソフトテニス）を続けることになる。学校では成績は中の上程度でしかなく決して優等生とか模範生ではなかったが選挙の度に選ばれ3年間級長を務める。3年の夏父に連れられ内定していた織物買継商の大商店に挨拶に行く。が、9月の進路相談にて担任に進学を進められる。
- 1953年 4月 東京都立国立高等学校入学。数学はA組であったが英語は最下位のクラスで授業を受ける。このときの屈辱が英語への挑戦の始まり。3年時の進路相談までは敬慕する木村純先生のようになりたく小学校教師志望であったが、担任の久保木哲夫先生に先生の母校を受験するよう勧められる。
- 1956年 4月 東京教育大学教育学部教育学科に入学。教師志望は変わらず英語教師になるべく英文科の授業を多数受講。卒業論文で「英語教育における視聴覚的方法」を追究し同題にて論文を大内茂男先生（主査）池永勝雅先生（副査）に提出。4年時東京都の中学校教員採用試験と千葉県の高등학교同試験に合格。しかし、語学力不足を自覚し大学院進学を決意する。
- 1960年 4月 国際基督教大学大学院教育研究科視聴覚教育専攻入学。当時英語教育では異色の新設大学であった。
- 1960年 9月 フルプライト奨学生となり奨学金を拝受する。
- 1961年 4月 国際基督教大学大学院奨学生となり授業料3分の1免除

- を受ける。
- 1961年 4月 東京都立五日市高等学校非常勤講師となる。
- 1962年 3月 東京都北区赤羽在住で足立区立第八中学校家庭科教諭和食操と結婚。修士論文作成に失敗。
- 1962年 4月 中央区立月島第一中学校非常勤講師となる。
- 1962年 9月 板橋区立志村第一中学校教諭となる。
- 1963年 4月 修士論文作成に再挑戦始める。
- 1964年 3月 国際基督教大学大学院より教育学修士号を授与される。
- 1964年 4月 東京都立城南高等学校教諭となる。
- 1965年 12月 長男順誕生。
- 1967年 4月 同高等学校より内地留学を許可され学部時代に教えていただいた東京教育大学教育学部附属外国語教育研究所の池永勝雅先生に1年間指導を受ける。
- 1968年 8月 次男勤誕生。
- 1970年 4月 獨協大学外国語学部専任講師となる。
- 1973年 4月 同大学助教授となる。
- 1974年 4月 筑波大学現代語・現代文化学系専任講師となる。
- 1977年 2月 オーストラリア外務省による大学英語教員対象の留学試験に合格しシドニー大学教育学部にて「外国語としての英語教員養成コース」に1年在籍し同資格免許取得。
- 1978年 4月 筑波大学助教授となる。
- 1978年 4月 国立音楽大学非常勤講師となる。
- 1979年 4月 成城大学法学部助教授となる。同学部は一般教育担当者では体育担当の恩田裕先生以外は、安田一郎（英語）、杉山隆彦（英語）、井上正蔵（独語）、丸山愛子（仏語）、金沢公子（仏語）各先生の語学担当者ばかりで、いずれの先生も文学や語学の一流の先生ばかりの活気ある学部であった。その中に迎えられ新設されたLLの管理・運営を担いLL授業を主に担当した。

- 1985年 4月 成城大学教授となる。
- 1988年 4月 津田塾大学非常勤講師となる。教職科目の一つである視聴覚教育法（後「教育工学」、現「教育メディアの研究」）を担当。学部時代からの研究テーマである外国語教育における視聴覚的方法の理論と実践法について講義する。現在続行中。
- 1997年 4月 武蔵野美術大学非常勤講師となる。
- 2003年 3月 成城大学教授にて定年退職。
- 2003年 4月 同大学教授に再雇用される。
- 2004年 3月 同大学教授再雇用期間終了退職。
- 2004年 4月 同大学名誉教授となる。
- 2004年 4月 同大学非常勤講師となる。
- 2004年 9月 成城大学、津田塾大学、武蔵野美術大学にて非常勤講師として現在に至る。

主要業績

発表年月	単著・共著	論文等の名称	発行所、発表雑誌等の名称
1960年 3月	(単)	「英語教育における視聴覚的方法」	卒業論文
1964年 3月	(単)	「英語教育におけるプログラム学習の効果に関する実験的研究」	修士論文 視聴覚教育学会『研究集録』11号
1968年 3月	(単)	「城南生が示す英単語学習得量の実態」	城南高『研究と報告』18号
1969年 7月	(単)	「聴解力強化をめざす授業とその実験デザイン」	桐英会『会誌』5号
1970年 1月	(共)	『ティーチング・マシーンとプログラム学習』	学習研究社
1972年 5月	(単)	「会話 LL 授業の効果とその改善にともなう変	

- 化」獨協大学外国語学部『紀要』6号
- 1973年 7月 (単) A Method of Oral English Instruction 桐英会『会誌』10号
- 1974年 10月 (単) 「大学生のための英語聴解力標準テスト作成に関する最終報告」大学英語教育学会『紀要』5号
- 1975年 9月 (共) *Teaching Manual for JACET-COLT Listening Comprehension Test: Form A* 開拓社
- 1976年 5月 (単) 「第1回大学生のための標準英語聴解力テスト Form A を実施して」『現代英語教育』5月号 研究社
- 1977年 2月 (共) *Listening-The First Skill (Drill A)* 開拓社
- 1978年 10月 (共) *Teaching of English in Japan* 英潮社
- 1979年 3月 (単) 「バイリンガル度を測るテストの開発：バイリンガリズムの尺度とその類型」『日本におけるバイリンガリズム (中間発表)』筑波大学バイリンガリズム研究会
- 1979年 3月 (単) 「ヒアリングにおける映像の役割」『外国語としての英語の Hearing 能力形成要因の実証的研究Ⅱ』文部省科学研究費研究
- 1979年 7月 (単) 「LL 考察：聴解力の重要性と映像の意義」成城大学法学部『教養論集』1号
- 1980年 3月 (単) 「映像教材試作」『外国語としての英語 Hearing 能力形成要因の実証的研究Ⅲ』文部省科学研究費研究
- 1980年 2月 (単) 「ヒアリングにおける映像の役割」『英語教育』2月号 大修館
- 1980年 3月 (単) 「バイリンガル度を測定するテストの開発：バイリンガリズムの尺度と類型 (Ⅱ)」『日本に

- おけるバイリンガリズム (最終報告)』筑波大学バイリンガリズム研究会
- 1980年 4月 (単) 「バイリンガルのための口語英語使用能力テスト」『心理測定ジャーナル』16巻6号 日本心理適性研究所
- 1980年 8月 (単) 「速くて聞き取れない—聞き取りの練習」『英語教育』6月号 大修館
- 1981年 2月 (単) 「わが国の学生の英語能力と結果についての—考察」成城大学法学部『教養論集』2号
- 1982年 3月 (単) 「在米日本人子女の二言語使用—サンフランシスコ日本語補修学校在籍生徒の回答結果より」成城大学法学部『教養論集』3号
- 1982年 10月 (単) 「在米日本人子女の二言語使用と教科学習」東京学芸大学海外子女教育センター『研究紀要』1集
- 1982年 12月 (単) 「二言語使用—海外子女教育のひとつのあり方」成城学園『成城教育』38号
- 1983年 6月 (単) 「在米日本人子女の二言語使用と教科学習」成城学園『成城教育』40号
- 1983年 9月 (単) 「二言語教育の苦悩」成城学園『成城教育』41号
- 1984年 3月 (単) 「口語英語教育再考：その指導法のあり方」成城大学法学部『教養論集』4号
- 1985年 3月 (単) 「外国語教育における視聴覚的方法：映像利用の理論的根拠」成城大学法学部『教養論集』5号
- 1990年 12月 (単) 「やさしい法律英語：憲法・新聞・TV ニュースより」成城大学法学部『教養論集』8号
- 1992年 7月 (単) 「やさしい法律英語その2：アメリカ連邦最高裁

- 判所裁判官任命をめぐって」成城大学法学部『教養論集』9号
- 1993年 1月 (単) 「やさしい法律英語 その3：妊娠中絶に対するアメリカ連邦最高裁判所の判決をめぐって」成城大学法学部『教養論集』10号
- 1993年 7月 (共) 『英語のヒアリングとその指導』大修館
- 1997年 3月 (単) 「やさしい法律英語 その4：O.J. シンプソン裁判を追って その1：刑事裁判における無罪判決が出るまで」成城大学法学部『教養論集』13号
- 1998年 4月 (単) 「やさしい法律英語 その5：O.J. シンプソン裁判を追って その2：民事裁判を振り返って」成城大学法学部『教養論集』14号
- 2000年 5月 (単) 「ニュースに現れた法律関係英語 その1」成城大学法学部『教養論集』15号
- 2001年 5月 (単) 「やさしい法律英語 その6：2000年アメリカ大統領選挙の開票をめぐって」成城大学法学部『教養論集』16号
- 2004年 3月 (単) 「やさしい法律英語 その7：James Earl Rayの一生」成城大学法学部『教養論集』18号
- 2005年 3月 (単) 「外国語教育における視聴覚的方法と教材 *The Sadrina Project* の分析とその諸場面」成城大学法学部『教養論集』19号

